

(案)

資料4-1

がんに関する実態把握調査
～がん患者・がん経験者の就労状況及び緩和ケア満足度～
調 査 結 果

令和2年(2020年) 月

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課がん対策係

目 次

I 調査の概要	2
II 調査結果	
1 回答者の状況	8
2 診断時の就労状況	10
3 現在の就労状況	12
4 がん患者が働き続けられるための対応・制度	13
5 がん患者の就労に関する意見など	13
6 緩和ケアの認知度及び知ったきっかけ	14
7 緩和ケアのイメージ及び緩和ケアに関する説明	15
8 緩和ケアを受けたことの有無	15
9 緩和ケアを受けての所感	16
10 緩和ケアに関する意見など	17
III 考察・まとめ	18
IV 集計表等	19

I 調査の概要

1 調査の目的

がん対策の推進上の課題等の実態把握・分析を行い、北海道がん対策推進計画（平成30年3月）の施策展開に寄与することを目的とする。

2 調査対象

がん患者・がん経験者 755人

3 調査内容

- ア がん患者の就労に関すること
- イ 患者の緩和ケアに関する意識・満足度に関すること

4 調査範囲

全道域

5 調査実施時期（回答時点）

平成30年12月～同31年2月（平成30年12月1日）

6 実施方法

道内のがん診療連携拠点病院（20病院）・地域がん診療病院（2病院）及び北海道がん診療連携指定病院（26病院）の協力を得て、当該病院のがん相談支援センターを利用された入院・通院患者を中心に調査票を配付し、調査票と同時に配付した返信用封筒により回収した。

<二次医療圏別拠点病院等数>

二次医療圏	拠点 ^{※1}	診療 ^{※2}	指定 ^{※3}
南渡島	2	-	2
南檜山	-	-	-
北渡島檜山	-	-	-
札幌	8	-	13
後志	-	1	1
南空知	-	1	-
中空知	1	-	-
北空知	-	-	1
西胆振	1	-	3
東胆振	1	-	1
日高	-	-	-

二次医療圏	拠点	診療	指定
上川中部	3	-	2
上川北部	-	-	1
富良野	-	-	-
留萌	-	-	-
宗谷	-	-	-
北網	1	-	-
遠紋	-	-	1
十勝	1	-	1
釧路	2	-	-
根室	-	-	-
計	20	2	26

※1：拠点-がん診療連携拠点病院 ※2：診療-地域がん診療病院 ※3：指定-北海道がん診療連携指定病院

7 集計客体数

調査票配付数	回収数	回収率
755	217	28.7%

8 調査結果及び集計表等の標記等について

- 「回答無効」の標記は、未回答や前後の設問間において矛盾した回答（アと回答した方のみ問2を回答すべきところを、イと回答した方が問2を回答しているなど。）などを指します。
- 記述回答については、同趣旨の回答をまとめ、文末にその件数を標記することや、回答内容の趣旨が逸脱しない範囲内において文章を要約するなど、一部編集している場合があります。

がんに関する実態把握調査への御協力をお願い

北海道では、2人に1人ががんに罹る昨今、がんに負けない社会の実現に向けて、北海道がん対策推進条例を制定するとともに、同条例に基づき「北海道がん対策推進計画」を策定し、がん医療の提供体制の整備や、がん患者の就労支援、がん検診の受診率向上等の取組を進めているところです。

この度、がん対策のうち、がん患者が働きながら治療を続けられる環境整備（就労支援）と、緩和ケアの提供体制の充実を図る施策立案の参考とするため、がん患者・経験者を対象として、就労や緩和ケアなどの療養の実態を把握するための調査を行うことといたしました。

調査は無記名で行い、回答いただいた内容は統計的に分析して、道の施策立案の参考とさせていただきます。このため、分析結果を公表する際には、個人が特定されることは一切ありません。

また、本調査への回答により、治療への不利益が生じることも一切ありません。

時節柄、御多忙のことと存じますが、趣旨を御理解いただき、調査に御協力いただきますようお願い申し上げます。

平成30年12月

がん患者・がん経験者 様

北 海 道

【調査の回答に当たって】

- 平成30年12月1日時点の状況で回答ください。
- 記入後の調査票は、同封した返信用封筒にて、

2月3日（日） までに投函いただくようお願いします。

本調査に関する問合せ先

	北海道	北海道保健福祉部健康安全局地域保健課がん対策グループ
		TEL 011-231-4111（内25-527）
		FAX 011-232-2013

がんに関する実態把握調査

(がん患者・がん経験者の就労状況及び緩和ケア満足度)

H30.12.1時点

◆基本情報

現年齢	歳	がん診断時の年齢	歳	お住まいの市町村	市・町・村
性別	男・女	現在の治療状況	入院・通院	がん治療を行う主たる病院の所在市町村	市・町・村

■各問に対し、最も当てはまる回答の番号に○と、適宜〔 〕内へ記述をお願いします■

就労に関する項目

問1 診断時と現在の就労状況について当てはまるものを一つ選んでください。

ア 診断時

- (1)正社員 (2)派遣・契約社員 (3)パート・アルバイト (4)自営業
(5)無職(専業主婦含む) (6)学生 (7)その他〔 〕

イ 現在

- (1)正社員 (2)派遣・契約社員 (3)パート・アルバイト (4)自営業
(5)無職(専業主婦含む) (6)学生 (7)その他〔 〕

問1-2 [問1 ア 診断時で(1)～(3)と回答された方] 診断後、検査や治療が進む中で、仕事の継続に関し事業主へ相談しましたか。

- (1)相談した (2)相談しなかった

↓
問1-2-1 相談した結果、事業主の理解は得られましたか。

- (1)十分理解が得られた (2)ある程度理解が得られた (3)得られなかった

問1-3 [問1 イ 現在で(1)～(3)と回答された方] 現在、検査や治療が進む中で、仕事の継続に関し事業主へ相談しましたか。

- (1)相談した (2)相談しなかった

↓
問1-3-1 相談した結果、事業主の理解は得られましたか。

- (1)十分理解が得られた (2)ある程度理解が得られた (3)得られなかった

問2 [問1ア 診断時で(1)～(4)と回答された方] 仕事を続けることや再就職に関して、職場以外に相談した先はありますか（複数回答）。

- (1) 病院の相談支援センター (2) ハローワーク (3) 社会保険労務士事務所
(4) 相談していない (5) その他〔 〕

問3 [問1ア 診断時で(1)～(4)と回答された方] 診断後、検査や治療が進む中で働き方に変化はありましたか。

- (1) 同じ仕事を継続している (2) 違う仕事内容や部署に異動した (3) 退職して再就職した
(4) 退職して就職活動中 (5) 退職して再就職の予定はない (6) 廃業した
(7) その他〔 〕

問3-2 [問3で(2)～(5)と回答した方] 異動・退職はどのような経緯で決まりましたか。

- (1) 自分から希望 (2) 会社からの申出・会社の事情
(3) その他〔 〕

問4 がん患者が働き続けるためには、どのような対応・制度が必要と思いますか（3つまで）。

- (1) 短時間勤務への変更
(2) フレックスタイム（従業員が始業・終業時刻を決定して働く制度）の導入
(3) 在宅勤務制度の導入 (4) 体調や治療終了を考慮した配置転換 (5) 休職中の賃金補償
(6) 通院治療日の有給休暇補償 (7) 職場内のフォロー体制の整備
(8) 体調不良時に利用できる休憩場所の確保 (9) 相談窓口の設置 (10) 必要ない
(11) その他〔 〕

問5 その他、がん患者の就労に関する意見などがありましたらご記入ください。

〔 〕

緩和ケアに関する項目

問6 「緩和ケア」という言葉を知っていますか。

- (1) 知っている (2) 聞いたことはあるが内容は知らない (3) 知らない

問6-2 [問6で(1)と回答した方] どのようなきっかけで知りましたか。

- (1) 以前から知っていた
- (2) 主治医又はその他医師からの説明
- (3) 医師以外の診療スタッフ（看護師等）からの説明
- (4) 病院の相談支援センター（相談支援部門）のスタッフからの説明
- (5) その他 []

問7 緩和ケアの内容に関して、どのようなイメージ持っていますか（複数回答可）。

- (1) 身体的苦痛を和らげるもの
- (2) 精神的苦痛を和らげるもの
- (3) 薬物療法や放射線治療など、がんの治療と一緒に行うもの
- (4) 終末期のケアとして行うもの
- (5) 入院患者が受けるもの
- (6) よくわからない

問8 医師などから、あなた又は家族に対して、緩和ケアに関する十分な説明はありましたか。

- (1) あった
- (2) なかった
- (3) 説明を求めている
- (4) 説明されたが覚えていない

問9 あなたは緩和ケアを受けたことがありますか

- (1) 現在受けている
- (2) 過去に受けたことがある
- (3) 受けたことがない



問10へ

問9-2 緩和ケアを受けるに当たって、治療の選択など、あなた又は家族の希望が取り入れられるような配慮がありましたか。

- (1) あった
- (2) なかった
- (3) 特に希望は申し出していない

問9-3 緩和ケアの従事スタッフは、あなた又は家族からの相談等に応じてくれていますか。

- (1) 応じてくれている
- (2) 応じてくれない時がある
- (3) 応じてくれない
- (応じてくれた)
- (応じてくれない時があった)
- (応じてくれなかった)

問9-4 緩和ケアを受けて、あなたのからだの痛みの苦痛は和らぎましたか。

- (1) 和らいでいる
- (2) 大体和らいでいる
- (3) 和らいでいない
- (4) わからない
- (和らいだ)
- (大体和らいだ)
- (和らがなかった)
- (わからなかった)

問9-5 緩和ケアを受けて、あなた又は家族の精神的な苦痛は和らぎましたか。

- (1) 和らいでいる
- (2) 大体和らいでいる
- (3) 和らいでいない
- (4) わからない
- (和らいだ)
- (大体和らいだ)
- (和らがなかった)
- (わからなかった)

問10 その他、緩和ケアに関する意見などがありましたらご記入ください。

[]

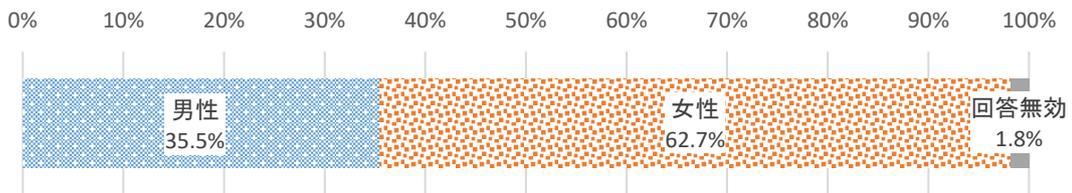
御協力ありがとうございました

Ⅱ 調査結果

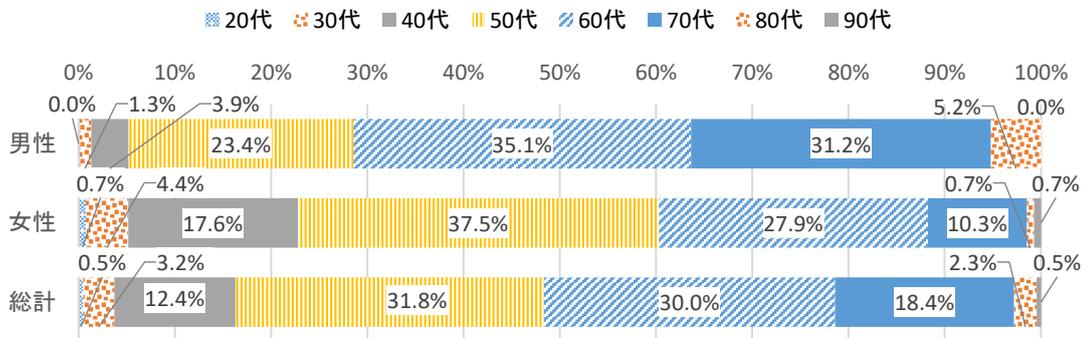
1 回答者の状況

- 性別は、男性35.5%、女性が62.7%であった。【図1】
- 回答者の年代は、全体で50～60代が最も多く、両者合わせて61.8%であった。【図2】
- 診断時の年代は、全体では50代以降で65.8%であるが、男女別では20～40代が男性で10.4%に対し、女性では44.1%で違いが見られた。【図3】
- 入院・通院の別では、通院が8割以上を占めていた。【図4】
- 居住地（二次医療圏）は、札幌、上川中部、南渡島の順に多かった。【図5】
- がん治療を行う病院が居住地の二次医療圏内である者は、86.9%であった。【図6】

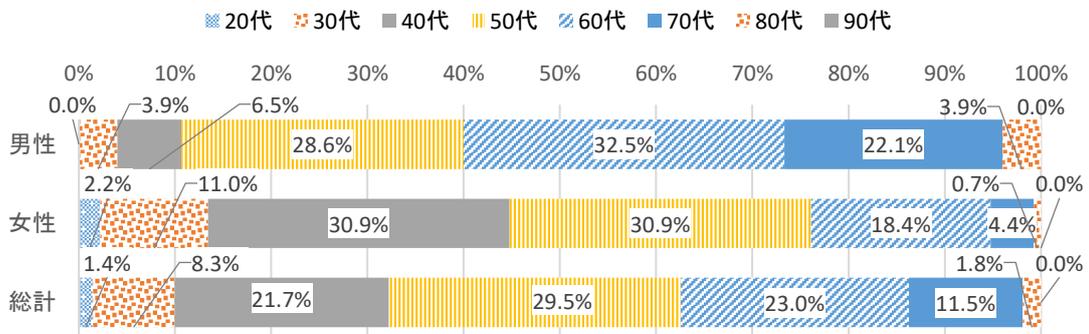
【図1】性別



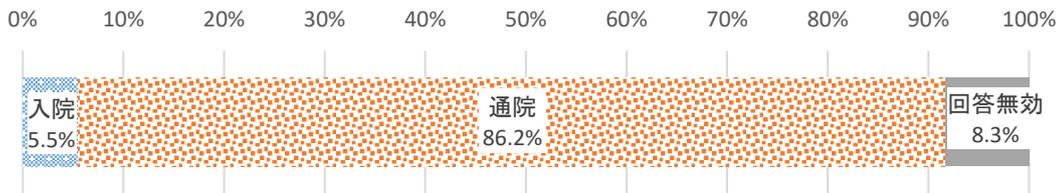
【図2】現在の年代



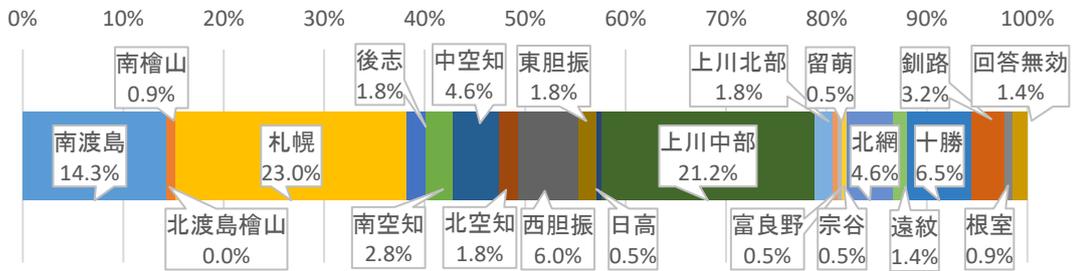
【図3】診断時の年代



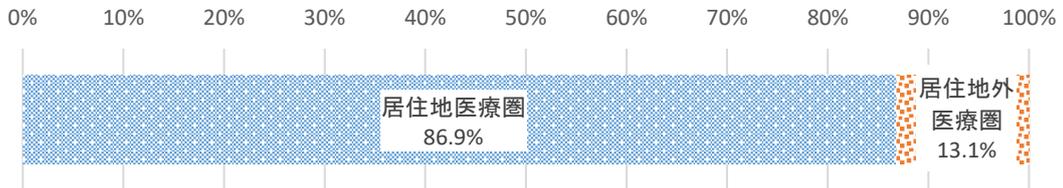
【図4】入院・通院の別



【図5】居住地の二次医療圏



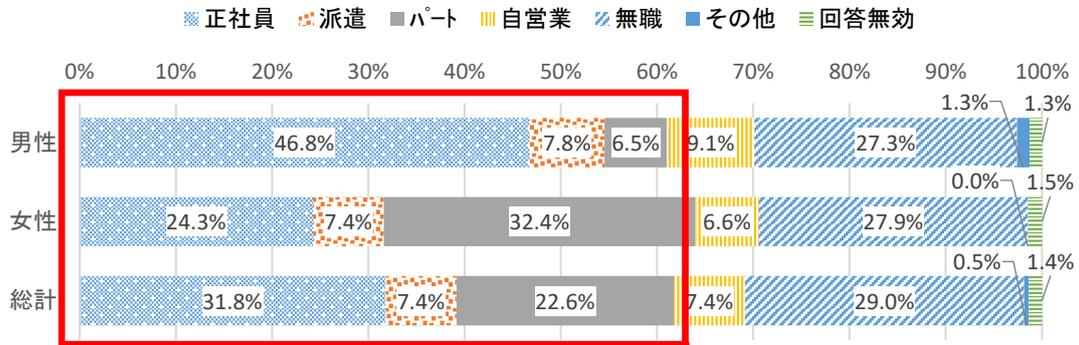
【図6】居住地医療圏で治療を受けている人



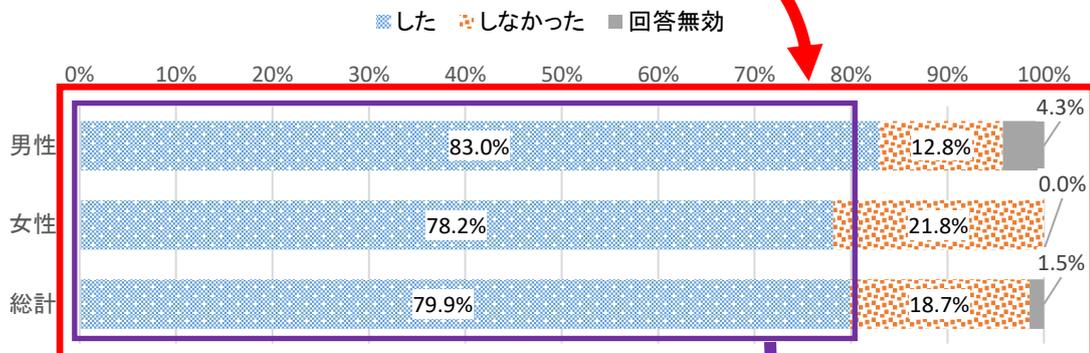
2 診断時の就労状況

- 診断時に就労していた人は、雇用・自営合わせると男女とも約7割で、男性では正社員（46.8%）が、女性ではパート・アルバイト（32.4%）が最も多かった。【図7】
- 診断時に仕事の継続に関し事業主へ相談していた人は全体で約8割であった。【図8】
- 事業主への相談の結果、「理解を十分得られた」「ある程度得られた」とする人は、全体で約9割であった。【図9】

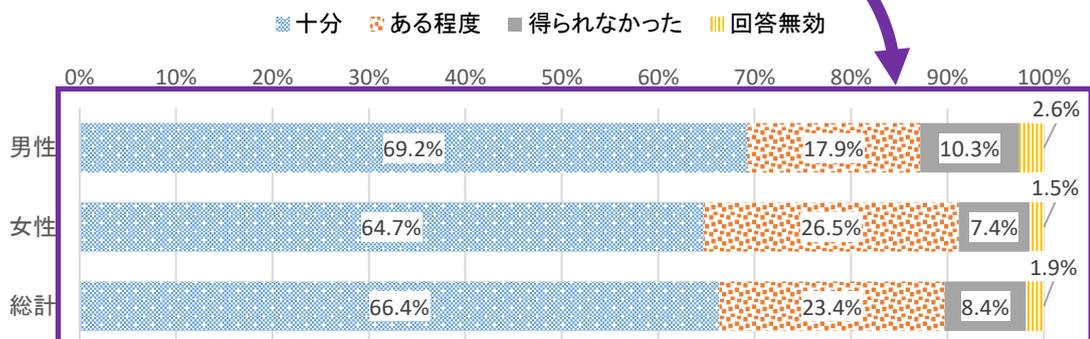
【図7】 診断時 就労状況



【図8】 診断時 仕事の継続の事業主への相談の有無

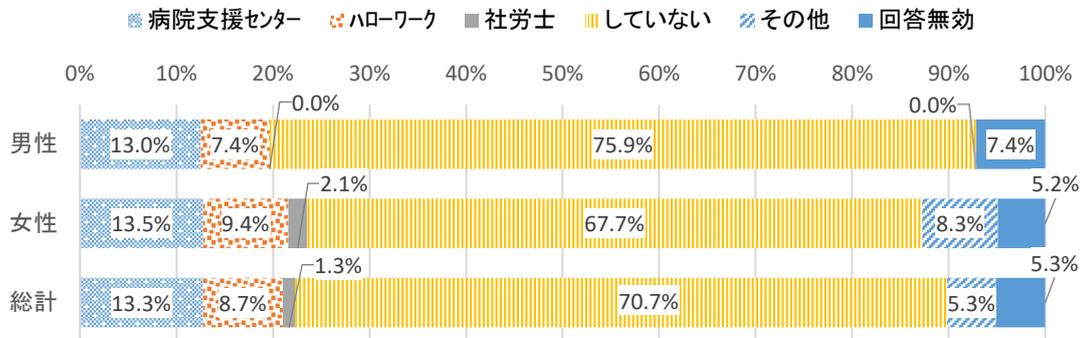


【図9】 診断時 相談の結果

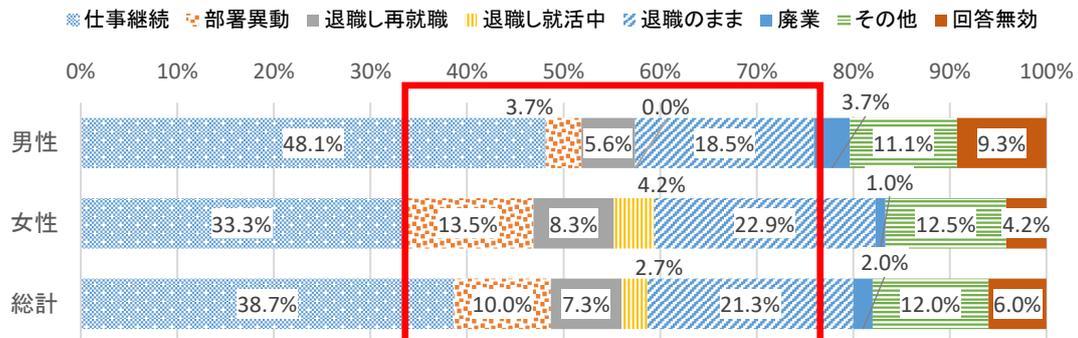


- 診断時に職場（事業主）以外に相談した人は「その他」を含め全体で28.6%であり、「その他」の主なものは、病院の医師、家族・友人であった。【図10】
- 診断後の働き方は、引き続き就労を継続される（希望される）人が全体で58.7%（「仕事継続」「部署異動」「退職し再就職」及び「退職し就活中」）、うち部署異動や再就職した人は、男性（9.3%）より女性（21.8%）の方が多く、「退職」または「廃業」された人は全体で23.3%であった。【図11】
- 診断後の働き方のうち、違う仕事内容や部署に異動したことや、退職すると決めた経緯は、「自分から希望」が全体で59.7%、会社からの申出・事情が27.4%であった。会社からの申出・事情は、女性（23.4%）よりも男性（40.0%）の方が多かった。【図12】

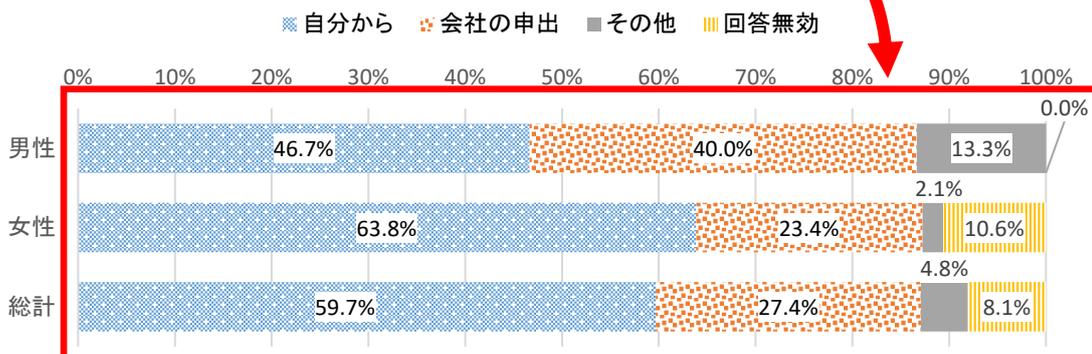
【図10】 診断時 職場以外の相談先



【図11】 診断後の働き方



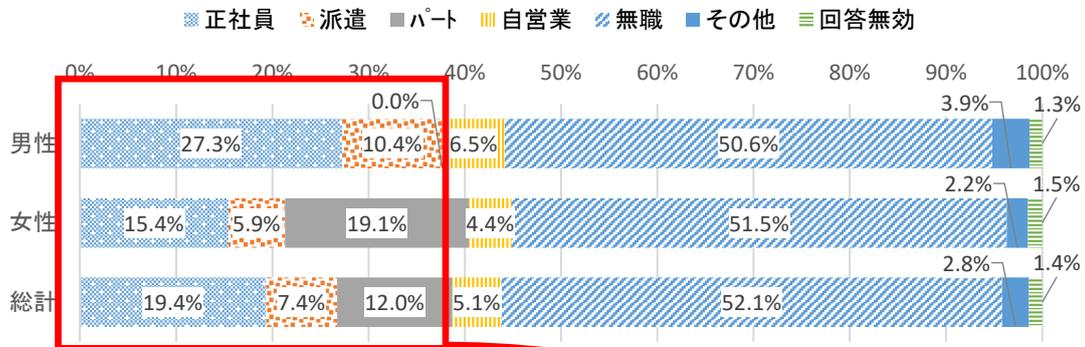
【図12】 異動・退職の経緯



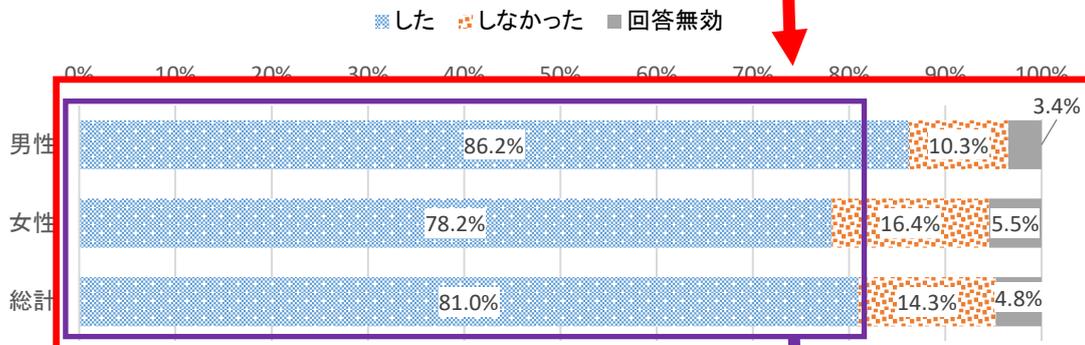
3 現在の就労状況

- 現在の就労状況は、雇用・自営合わせて男女とも約4割で、診断時の就労状況と比較すると正社員の割合が減っており、無職の割合が増加している。なお、男性については派遣・契約社員の割合が増えていた。【図13】
- 現在の就労においても、仕事の継続に関し事業主へ相談していた人は、診断時と同様に約8割であった。【図14】
- 事業主への相談の結果、「理解を十分得られた」「ある程度得られた」とする人は全体で約9割を超えており、診断時の相談結果より増えていた。【図15】

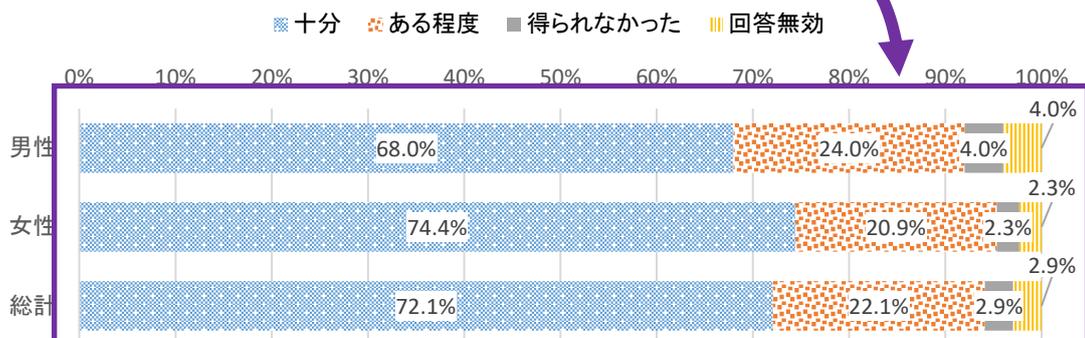
【図13】 現在 就労状況



【図14】 現在 仕事の継続の事業主への相談の有無



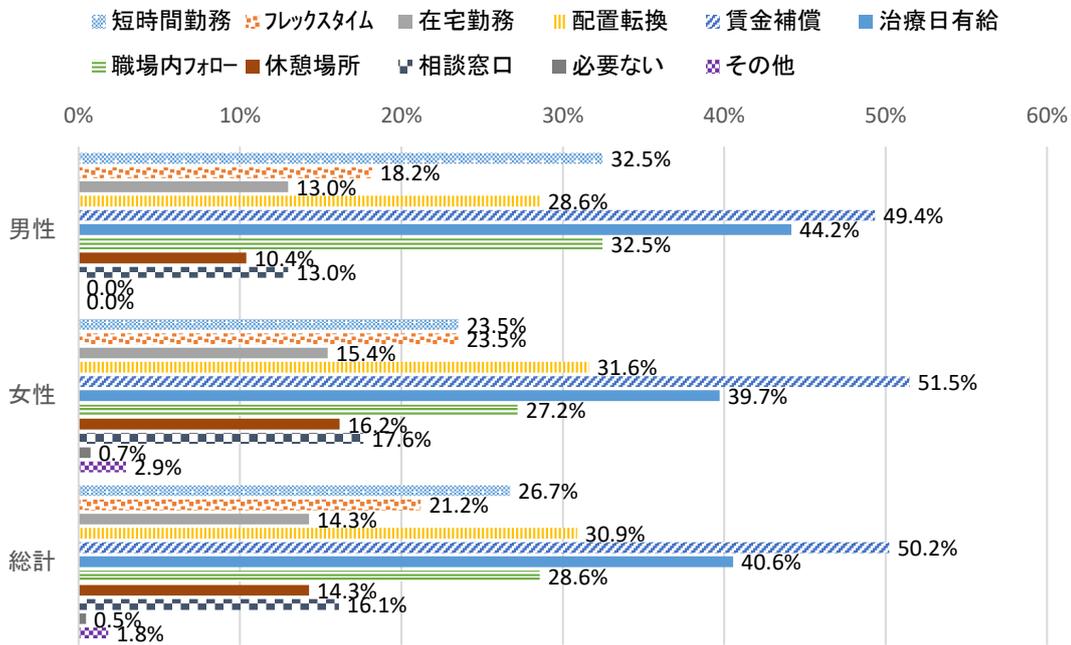
【図15】 現在 相談の結果



4 がん患者が働き続けるための対応・制度（複数回答）

- 必要と思う対応・制度は、全体では「休職中の賃金保障」（50.2%）、「通院治療日の有給休暇」（40.6%）、「体調や治療終了を考慮した配置転換」（30.9%）の順に多かった。
【図16】
- 男女の比較では、男性は「短時間勤務への変更」（32.5%）、「職場内のフォロー体制の整備」（32.5%）、女性は「フレックスタイムの導入」（23.5%）、「体調不良時に利用できる休憩場所の確保」（16.2%）が多かった。【同】

【図16】 がん患者が働き続けるための対応・制度



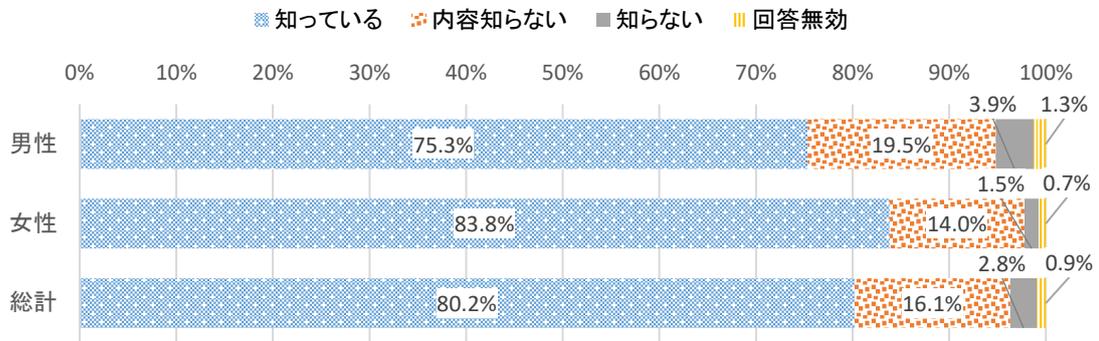
5 がん患者の就労に関する意見など（自由記述）

p23 を参照。

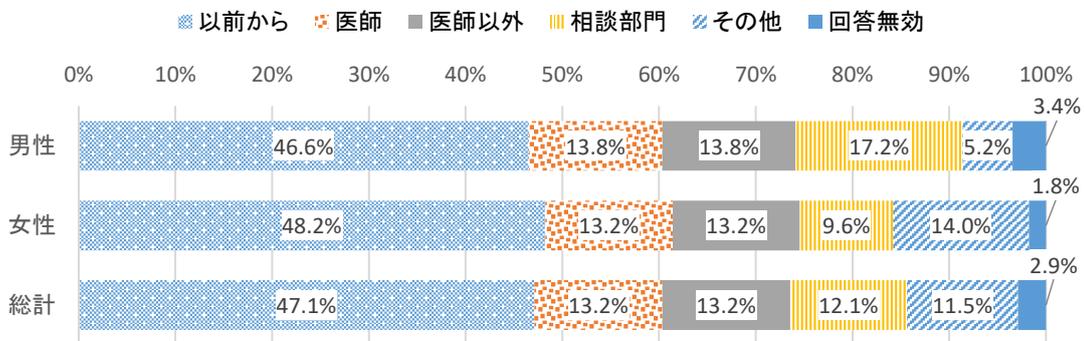
6 緩和ケアの認知度及び知ったきっかけ

- 緩和ケアという言葉を知っている人は、全体で80.2%であった。聞いたことがあるが内容は知らない人は、女性（14.0%）より男性（19.5%）が多かった。【図17】
- 緩和ケアを知ったきっかけは、全体で以前から知っていた人が約半数で、医師、医師以外の診療スタッフ（看護師等）、相談支援センタースタッフからとする人がほぼ同割合であった。【図18】。

【図17】 緩和ケアの認知度



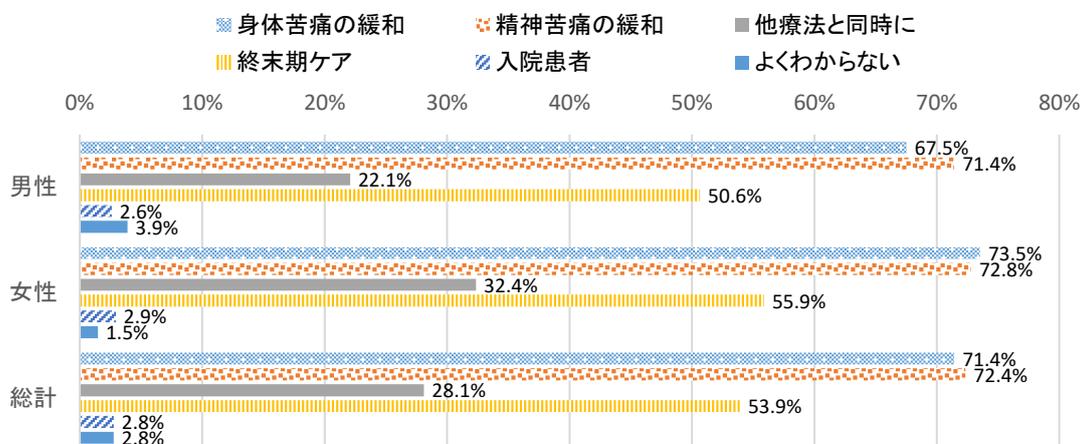
【図18】 緩和ケアを知ったきっかけ



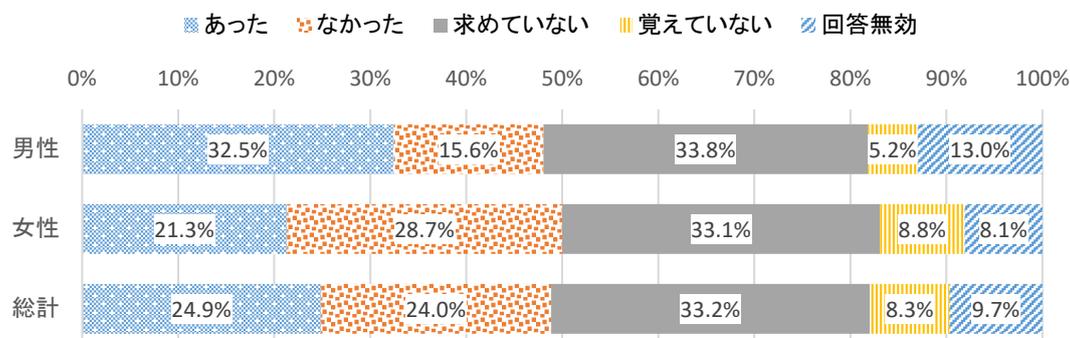
7 緩和ケアのイメージ及び緩和ケアに関する説明

- 緩和ケアのイメージは、全体で「精神的苦痛の緩和」（72.4%）、「身体的苦痛の緩和」（71.4%）、「終末期のケアとして行うもの」（53.9%）の順に多かった。【図19】
- 医師などからの緩和ケアに関する説明は、全体で「求めている」（33.2%）、「あった」（24.9%）、「なかった」（24.0%）の順に多かった。【図20】

【図19】 緩和ケアのイメージ（複数回答）



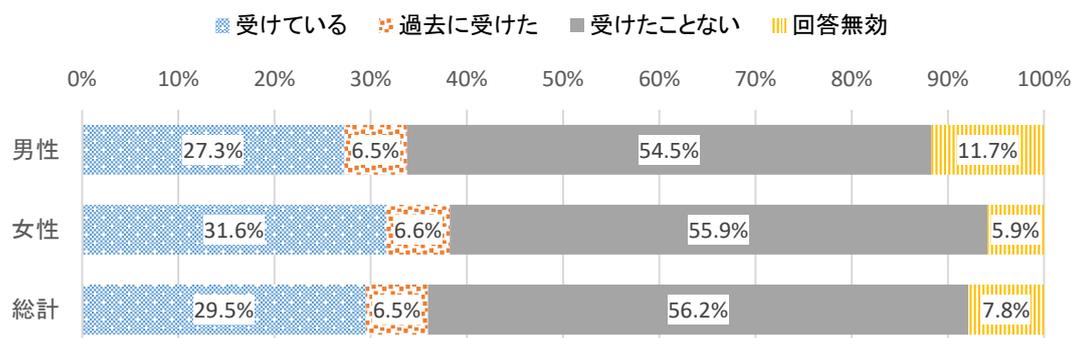
【図20】 緩和ケアに関する十分な説明



8 緩和ケアを受けたことの有無

- 緩和ケアを受けている又は過去に受けたことがある人は、全体で36.0%、受けたことがない人は56.2%であった。【図21】

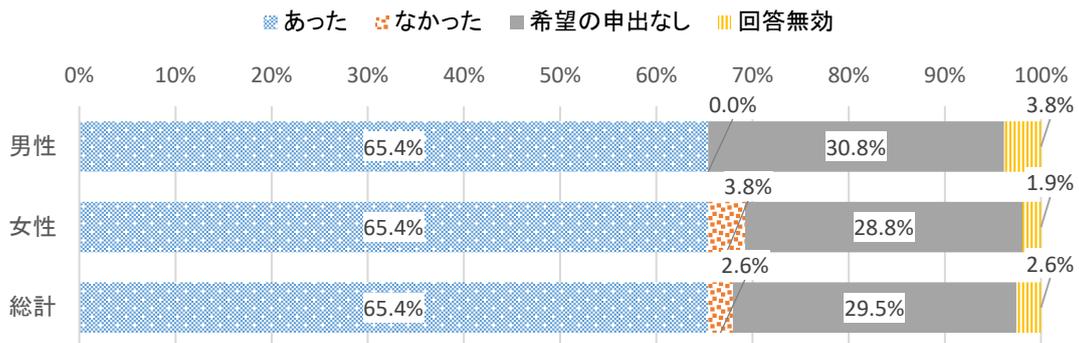
【図21】 緩和ケアを受けたことの有無



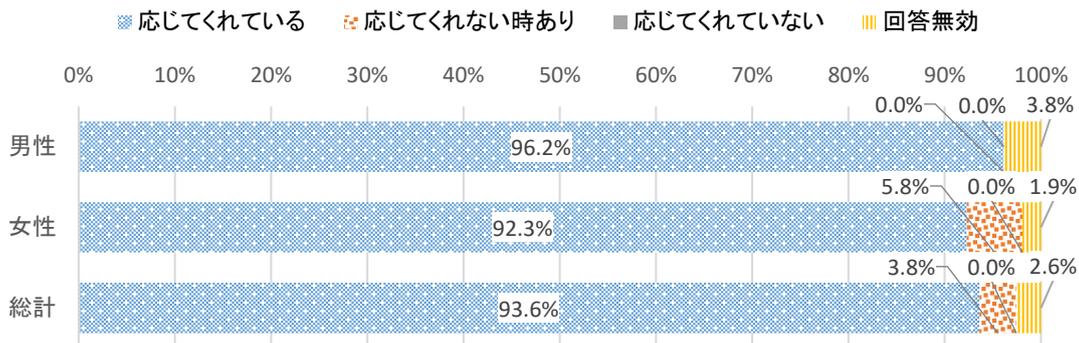
9 緩和ケアを受けての所感

- 自身又は家族の希望が取り入れられるような配慮については、全体で「あった」が65.4%、「なかった」は2.6%とわずかであった。【図22】
- 緩和ケアの従事スタッフは自身又は家族の相談については、全体で「応じてくれている（応じてくれた）」が9割を超えていた。【図23】
- 緩和ケアを受けてのからだの痛みの苦痛については、全体で「和らいでいる（和らいだ）」、「大体和らいでいる（大体和らいだ）」を合わせて79.4%、「和らいでいない（和らがない）」は2.6%とわずかであった。【図24】
- 緩和ケアを受けての精神的な苦痛については、全体で「和らいでいる（和らいだ）」、「大体和らいでいる（大体和らいだ）」を合わせて83.3%、「和らいでいない（和らがない）」は1.3%とわずかであった。【図25】

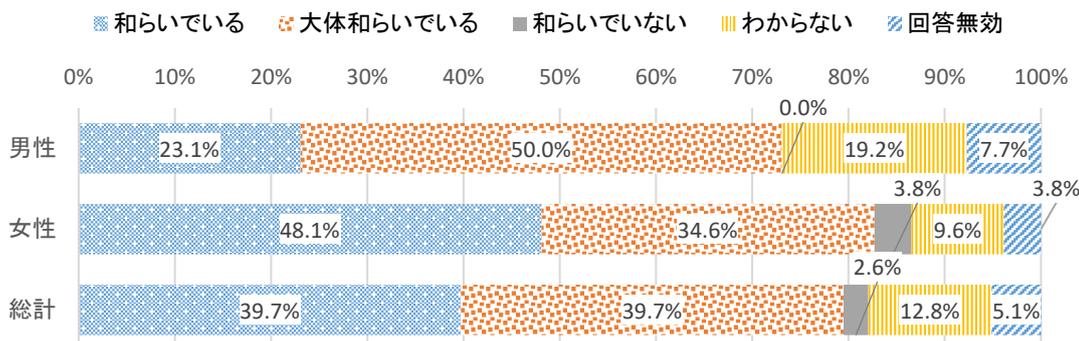
【図 22】 緩和ケアを受けるに当たっての希望の取り入れの配慮



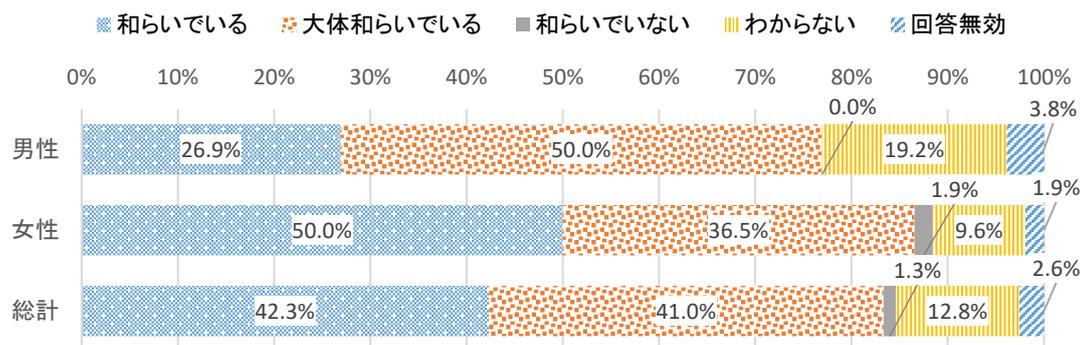
【図 23】 緩和ケア従事スタッフの相談等対応



【図 24】 緩和ケアを受けてのからだの痛みの苦痛の和らぎ具合



【図 25】 緩和ケアを受けての精神的な苦痛の和らぎ具合



10 緩和ケアに関する意見など（自由記述）
p28 を参照。

Ⅲ 考察・まとめ

<回答者の状況から>

- がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院及び北海道がん診療連携指定病院が未整備の圏域に居住する患者は、居住地の三次医療圏内の病院で治療を受けていることから、現行の各二次医療圏域に整備されている病院が未整備圏域を補完していることが確認された。

<就労に関する回答から>

- がん罹患した後について、診断後においても6割の人が仕事を継続しており、そのうち部署異動や転職に至った経緯として、自らの希望だけではなく、会社からの申出・事情という回答が少なからずあった。
- 年数の経過により正社員から契約社員への移行や退職（廃業）の割合が増加しており、本人の症状や治療方法に応じて、働き方への変化があったものと推察される。
- 仕事をされている人の多くから、事業主へ相談し、症状等を勘案した働き方について、ある程度の理解が得られているという回答があった。
- がん患者が働き続けるための対応や制度として、休職中の賃金保障、治療日の有給休暇、体調や治療終了を考慮した配置転換を求める人が多いことが確認された。

- 診断後も仕事を継続している（希望している）人が半数以上おり、がん患者本人の希望により転職等をされる場合もあることから、就職を含め就労に係る支援はますます必要になると考えられる。
- 就労の継続において、がん患者の症状や治療方法に応じた働き方への変化に対応するためには、職場における理解や配慮が必要不可欠であり、治療と仕事の両立ができる職場環境づくりに関し、引き続き関係機関との連携による支援や普及啓発が重要と考えられる。

<緩和ケアに関する回答から>

- 緩和ケアという言葉を知っていたとする人が多かったが、終末期のケアとして行うものと認識している人が半数以上おり、診断を受けたときから必要に応じて行われるものとする緩和ケアの本来の考え方と一部相違していることが確認された。
- 緩和ケアを受けるに当たって、自身又は家族の希望の取り入れや、相談等への対応については、応じてもらえているという回答があった一方で、緩和ケアに関する説明がなかったまたは求めていないという回答が半数あり、緩和ケアを受けたことがあると回答された人は全体の3割程度に留まっていた。

- 身体及び精神的苦痛は、和らいでいる・大体和らいでいるとする回答が多いことや、緩和ケアを受けている又は過去に受けた人の自由記述の内容から判断すると、緩和ケアの満足度は高いものと考えられるが、終末期のケアとして行うものと認識されている人も多いため、引き続き緩和ケアに関する普及啓発が必要と考えられる。

IV 集計表等

回収状況

配付数	回答数	回収率
755	217	28.7%

回答者 性別・年代

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
20-29		0.0%	1	0.7%		0.0%	1	0.5%
30-39	1	1.3%	6	4.4%		0.0%	7	3.2%
40-49	3	3.9%	24	17.6%		0.0%	27	12.4%
50-59	18	23.4%	51	37.5%		0.0%	69	31.8%
60-69	27	35.1%	38	27.9%		0.0%	65	30.0%
70-79	24	31.2%	14	10.3%	2	50.0%	40	18.4%
80-89	4	5.2%	1	0.7%		0.0%	5	2.3%
90-99		0.0%	1	0.7%		0.0%	1	0.5%
回答無効		0.0%		0.0%	2	50.0%	2	0.9%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%
性別比率	35.5%		62.7%		1.8%		100.0%	

診断時の年代

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
20-29		0.0%	3	2.2%		0.0%	3	1.4%
30-39	3	3.9%	15	11.0%		0.0%	18	8.3%
40-49	5	6.5%	42	30.9%		0.0%	47	21.7%
50-59	22	28.6%	42	30.9%		0.0%	64	29.5%
60-69	25	32.5%	25	18.4%		0.0%	50	23.0%
70-79	17	22.1%	6	4.4%	2	50.0%	25	11.5%
80-89	3	3.9%	1	0.7%		0.0%	4	1.8%
90-99		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
回答無効	2	2.6%	2	1.5%	2	50.0%	6	2.8%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

治療状況

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
入院	7	9.1%	5	3.7%		0.0%	12	5.5%
通院	66	85.7%	120	88.2%	1	25.0%	187	86.2%
回答無効	4	5.2%	11	8.1%	3	75.0%	18	8.3%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

居住地医療圏で治療を受けている割合(回答無効除く)

	総計	
	人	%
1 居住地医療圏	185	86.9%
2 居住地外医療圏	28	13.1%
総計	213	100.0%

拠点病院等未整備圏域^{*}の患者の受療圏域

	総計	
	人	%
1 三次医療圏域内	8	100.0%
2 三次医療圏域外	0	0.0%
総計	8	100.0%

^{*}南檜山・北渡島檜山・日高・富良野・留萌・宗谷・根室

居住地と受療医療機関の二次医療圏域(縦軸:居住地、横軸:受療地) (上段:人、下段:%)

居住地/受療地	南渡島	南檜山	北渡島檜山	札幌	後志	南空知	中空知	北空知	西胆振	東胆振	日高	上川中部	上川北部	富良野	留萌	宗谷	北網	遠紋	十勝	釧路	根室	回答無効	総計
南渡島	29 93.5%			2 6.5%																			31 14.3%
南檜山	2 100.0%																						2 0.9%
北渡島檜山																							0 0.0%
札幌				49 98.0%																		1 2.0%	50 23.0%
後志				2 50.0%	2 50.0%																		4 1.8%
南空知				1 16.7%	5 83.3%																		6 2.8%
中空知				3 30.0%		6 60.0%						1 10.0%											10 4.6%
北空知				1 25.0%			3 75.0%																4 1.8%
西胆振								12 92.3%	1 7.7%														13 6.0%
東胆振				1 25.0%					3 75.0%	1 100.0%													4 1.8%
日高																							1 0.5%
上川中部												46 100.0%											46 21.2%
上川北部												4 100.0%											4 1.8%
富良野												1 100.0%											1 0.5%
留萌												1 100.0%											1 0.5%
宗谷												1 100.0%											1 0.5%
北網				1 10.0%									9 90.0%										10 4.6%
遠紋																							3 1.4%
十勝																		14 100.0%					14 6.5%
釧路																			7 100.0%				7 3.2%
根室																				2 100.0%			2 0.9%
回答無効																						3 100.0%	3 1.4%
総計	31 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	60 27.6%	2 0.9%	5 2.3%	6 2.8%	3 1.4%	12 5.5%	5 2.3%	0 0.0%	57 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 4.1%	0 0.0%	14 6.5%	9 4.1%	0 0.0%	4 1.8%	217 100.0%

問1ア 診断時の就労状況

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 正社員	36	46.8%	33	24.3%		0.0%	69	31.8%
2 派遣・契約社員	6	7.8%	10	7.4%		0.0%	16	7.4%
3 パート・アルバイト	5	6.5%	44	32.4%		0.0%	49	22.6%
4 自営業	7	9.1%	9	6.6%		0.0%	16	7.4%
5 無職(専業主婦含)	21	27.3%	38	27.9%	4	100.0%	63	29.0%
6 学生		0.0%		0.0%		0.0%	0	0.0%
7 その他	1	1.3%		0.0%		0.0%	1	0.5%
8 回答無効	1	1.3%	2	1.5%		0.0%	3	1.4%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

問1ア その他(記述)
会社役員

問1-2 診断時仕事の継続の事業主への相談の有無(問1ア 1~3の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 した	39	83.0%	68	78.2%	107	79.9%
2 しなかった	6	12.8%	19	21.8%	25	18.7%
3 回答無効	2	4.3%		0.0%	2	1.5%
総計	47	100.0%	87	100.0%	134	100.0%

問1-2-1 相談の結果(問1-2 1の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 十分	27	69.2%	44	64.7%	71	66.4%
2 ある程度	7	17.9%	18	26.5%	25	23.4%
3 得られなかった	4	10.3%	5	7.4%	9	8.4%
4 回答無効	1	2.6%	1	1.5%	2	1.9%
総計	39	100.0%	68	100.0%	107	100.0%

問1イ 現在の就労状況

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 正社員	21	27.3%	21	15.4%		0.0%	42	19.4%
2 派遣・契約社員	8	10.4%	8	5.9%		0.0%	16	7.4%
3 パート・アルバイト		0.0%	26	19.1%		0.0%	26	12.0%
4 自営業	5	6.5%	6	4.4%		0.0%	11	5.1%
5 無職(専業主婦含)	39	50.6%	70	51.5%	4	100.0%	113	52.1%
6 学生		0.0%		0.0%		0.0%	0	0.0%
7 その他	3	3.9%	3	2.2%		0.0%	6	2.8%
8 回答無効	1	1.3%	2	1.5%		0.0%	3	1.4%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

問1イ その他(記述)
休業・休職中(3)、市議、会社役員、フリーランス

問1-3 現在仕事の継続の事業主への相談(問1イ 1~3の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 した	25	86.2%	43	78.2%	68	81.0%
2 しなかった	3	10.3%	9	16.4%	12	14.3%
3 回答無効	1	3.4%	3	5.5%	4	4.8%
総計	29	100.0%	55	100.0%	84	100.0%

問1-3-1 相談の結果(問1-3 1の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 十分	17	68.0%	32	74.4%	49	72.1%
2 ある程度	6	24.0%	9	20.9%	15	22.1%
3 得られなかった	1	4.0%	1	2.3%	2	2.9%
4 回答無効	1	4.0%	1	2.3%	2	2.9%
総計	25	100.0%	43	100.0%	68	100.0%

問2 職場以外への相談(問1ア 1~4の回答者:複数回答可)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 病院支援センター	7	13.0%	13	13.5%	20	13.3%
2 ハローワーク	4	7.4%	9	9.4%	13	8.7%
3 社労士		0.0%	2	2.1%	2	1.3%
4 していない	41	75.9%	65	67.7%	105	70.7%
5 その他		1.9%	8	8.3%	8	5.3%
6 回答無効	4	7.4%	5	5.2%	8	5.3%

問2 その他(記述)

医師(3)、家族・友人(3)、病院外来、緩和ケアチームの看護師、支援団体

問3 仕事の変化(問1ア 1~4の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 同じ仕事継続	26	48.1%	32	33.3%	58	38.7%
2 部署異動	2	3.7%	13	13.5%	15	10.0%
3 退職し再就職	3	5.6%	8	8.3%	11	7.3%
4 退職し就活中		0.0%	4	4.2%	4	2.7%
5 退職し就職予定なし	10	18.5%	22	22.9%	32	21.3%
6 廃業	2	3.7%	1	1.0%	3	2.0%
7 その他	6	11.1%	12	12.5%	18	12.0%
8 回答無効	5	9.3%	4	4.2%	9	6.0%
総計	54	100.0%	96	100.0%	150	100.0%

問3 その他(記述)

休職した・休職中(15)
勤務日数や勤務期間を短縮(2)
定年退職し再就職

問3-2 異動・退職の経緯(問3 2~5の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 自分から希望	7	46.7%	30	63.8%	37	59.7%
2 会社の申出	6	40.0%	11	23.4%	17	27.4%
3 その他	2	13.3%	1	2.1%	3	4.8%
4 回答無効		0.0%	5	10.6%	5	8.1%
総計	15	100.0%	47	100.0%	62	100.0%

問3-2 その他(記述)

仕事ができない状態なので自然消滅。
自分から希望して退職するように誘導された。
職場や同僚から婉曲に退職をすすめられた。

問4 働き続けるための対応・制度(3つまで)

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 短時間勤務	25	32.5%	32	23.5%	1	25.0%	58	26.7%
2 フレックスタイム	14	18.2%	32	23.5%		0.0%	46	21.2%
3 在宅勤務	10	13.0%	21	15.4%		0.0%	31	14.3%
4 配置転換	22	28.6%	43	31.6%	2	50.0%	67	30.9%
5 賃金補償	38	49.4%	70	51.5%	1	25.0%	109	50.2%
6 治療日の有給休暇	34	44.2%	54	39.7%		0.0%	88	40.6%
7 職場内フォロー	25	32.5%	37	27.2%		0.0%	62	28.6%
8 休憩場所	8	10.4%	22	16.2%	1	25.0%	31	14.3%
9 相談窓口	10	13.0%	24	17.6%	1	25.0%	35	16.1%
10 必要ない		0.0%	1	0.7%		0.0%	1	0.5%
11 その他		0.0%	4	2.9%		0.0%	4	1.8%

問4 その他(記述)

患者が自分の意思で選択できるよう十分な情報提供

通院への配慮(転勤など)

通院時間休。ケアマネのように相談ができ、なおかつ職場や家族、時にはドクターとも対応してくれるスーパー人材の確保。

※1名未記入

問5 がん患者の就労に関する意見など(自由記述)

<男性>

■就労先の対応に関するもの

- 治療中の配慮と共に復職後に「(元)がん患者」であることを必要以上に配慮、差別することがないようにしてもらいたい。今や、「がん」も治る病気である事の認知を！！
- 経営者・管理者(職)との意思疎通を図ってほしい。
- 通院時、数時間の休みがとれたらいい。
- 会社側のがん治療に対する認識が誤っていたり、乏しいと感じることがあるので、正しい知識を理解いただける環境を求めます。
- 職場内での出来る範囲の仕事の継続が大切と思いますが、実現するための現場は自社にはありません。
- 職場環境の整備、職場内のがん治療等の教養が必要である。
- 一番は事業主の理解が必要と考えます。業務内容、時間、賃金など様々なことのクリアを期待しています。
- 就労するがん患者の意思尊重を優先することが大切だと思います。
- 企業におけるがん患者の就労支援策について、経営者にPRして欲しい。
- 職場の人間、特に上司ががんの知識不足のため適切な対応策がとられない。本人との考え方にギャップがありすぎ、理解されない点が多い。

■補償・雇用等制度に関するもの

- 化学治療の通院(高額医療使用)でお金がかかり、給料の月半分は治療費。職の無い人はどう治療し生活するのか。人工透析は障害手当が出るのに、ちょっと疑問です。
- 休職中の賃金補償は政府が主体となるべき。
- 休職補償を長くして欲しい。

■経験・苦悩・その他

- 退職して「がん」になったが、就労中だったら、相当きびしい事になったと思います。
- 年間売り上げノルマ達成のため毎月抗がん剤治療で入院しながら何とか2年過ぎたが、転移があちこちに見つかり近々廃業に追い込まれる可能性が大きい。62歳の年では社会的保証も何もなく病気の進行で体力がなくなってきている。

- 抗がん剤の副作用で髪の毛は抜け、体の倦怠感、手足のしびれ、等々の副作用で普通のサラリーマンでは会社を退職せざるを得ないと思う。私の場合は、家族企業なので仕事面、金銭面での問題は無かったが、私が中小の会社に入っていたと思うと寒気がする。
- がん種によって体調の有り様は色々であるが、がん未経験者からするとがん患者やがん体験者の気持ちや身体の不調を正確かつ十分に察し理解することは出来ていないことが多いと実感している。むしろがん患者やがん経験者の就業については偏見が先に立って差別意識が強く表出される実態にあると感じている。
- 通院しながらできる仕事（会社）がよくわからない。労働時間や日数等が厳しいためあきらめました。

<女性>

■就労先の対応に関するもの

- 雇用主もがん患者と就労の現状を学ぶべき。
- 本人が希望する時に休業、再就職（就労）が同じ職場で出来ると良いと思います。
- 休業もあるが治療が手術→放射線治療→通院→服薬など、早期のステージでも費用は高額で負担がかかることがわかりました。仕事を続けられることは経済的にも助かります。事業主のがん治療についての理解が進むとお互いにもっと良いかなと思います。
- 職場ではがんになったら働けないというイメージが強い。働く場所がない。地方の格差が大きい。
- 少し横になれる場所（休憩場）があると良い。いつも車の中で横になっている。
- 長期間、副作用の中で働くことへの理解が得られていないと思う。手術や抗がん剤の副作用で休職した際に、いつ戻れるのか何度も確認され負担だった。働き続けるためには上司や回りの協力は必須。
- 患者側から発信するのはなかなか難しい。事業主への啓蒙も必要だと思います。
- 職場の環境整備が必要と思われます。正職員には退職を迫ることができませんが、契約職員など期限のある人には平然と雇うことはできないと言う職場意識の改善が必要だと思います。病気（がん）になっても就労は可能であることを管理職などの方に理解してもらえ職場であって欲しいです。
- ながらワークの数がもっとあるといいなと思います。
- 管理職の無知が就労を阻む原因だと思います。
- 治療にはお金がかかるため、収入を断たれ新しい治療を断念せざるを得なかった患者さんもみえました。患者の体調変化に対応できるフレックス勤務、在宅勤務などもっと広がって欲しいと思います。
- 休職中、現在の状態を電話で報告していたが、復帰した時に店長が替わっていて、貴方のことは何も聞いていないと言われショックだった。
- がん患者でも働ける制度があるといいと思う。
- 通院が優先にも関わらず、仕事が優先になってしまう状況がある。職場で受診日を優先して休みを取得できるようにして欲しい。
- 会社と職場内の理解が不可欠である。

■補償・雇用等制度に関するもの

- 採用が難しいのが残念。安易に退職しないアドバイスが必要→障害者雇用のように政策も必要。リンパ浮腫のため、重い物が持てないなど職場の理解が必要。認定がん医療ネットワークナビゲーターを取得するなど努力してボランティアで活動されている方も多いが、少しでもお金になるような仕組みになるといいと思う。
- 抗がん剤治療の副作用が落ち着いてから失業保険の手続に行きましたが、退職した日から半年近く経過していたので、受給できる日数がカットされました。何か方法はなかったのでしょうか。
- 働けるものならがん患者でも無理なく働けるところがほしいと思います。紹介もしてくれたら一番いいように思っています。
- がん治療はお金もかかるし、賃金補償が絶対不可欠だと思います。がん患者への職場・社会全体での理解も必要。

- 費用負担が大きいので働けない状況だとやりくりが厳しい。障害手帳を持っていても少ししか変わらない。特に血液のがんをもっと見直してほしいと思います。
- 様々な保険などが出ているが、治療にかかる費用に苦労している。痛みと戦いながらも楽しさを求めていきたいので料金の緩和を図るか、貸し付け制度を積極的に行ってほしい。お金の苦痛は身体的にも精神的にも大きく影響する。治療費は少しでも安価に向かってほしいと希望する。
- 多くの医療保険は退院時の保障はしてくれても、その後の医療費は自分で負担していかなくてはなりません。せつかく病気に打ち勝ったのに出費が多く生きていけません。何とか国や市町村で難病や精神患者みたいに支援してもらえないでしょうか。
- 休みの間は自宅でメールをチェックしたり少しの仕事をしていましたが、病欠になっているため収入にもならなかったので在宅勤務ができ、少しでも収入が入るととても有難いです。
- 入院したときの補償充実。

■経験・苦悩・その他

- 手術後の治療も職場の理解もあり、3ヶ月後に復職できましたが、その後職場の縮小があり、自ら退職しました。がん告知後に職場に戻れたのでほっとしました。職場は公共機関でしたので戻れたのではと思っています。
- 病気のことを隠して面接を受ける方も多いと思います。病人を会社はそうそう引き受けてくれるわけではありません。もっと、私たちのような人間に仕事の斡旋をしてくれる会社が増えてくれたら嬉しいです。
- 職種や企業の規模にもよるが、特に小さな企業の場合配慮したいと思っても現実はいろいろな面で継続的に支えるのは難しいと思います。
- 精神的なストレスがかからなければ、仕事はしている方がいい。
- 治療を受けてがんと戦うためには、治療費が必要です。仕事を休むと体は楽になりますが、治療が受けられなくなります。また、病院代は高額医療費制度があり助かりますが、お薬代は別会計になり3か月後でなければ戻ってきません。現実には厳しく大変です。
- 地方になればなるほど企業側の理解を得るのは難しいような気がする。
- 去年手術をして現在は抗がん剤治療を通院で行っていますが、夜勤の仕事なので夜中、何かあったら大変なのでと言われ、全部の治療が終わった頃、家を訪問しお話しすると言われた。仕事しながらといっても無理して行動すると再発という心配があるので、仕事をすることは考えていない。これからの生活維持が大変になりそう。
- 私の場合は職場のトップが仕事は辞めずに体調のよいときに出勤してくれればよいと言ってくれましたが、副作用が酷く仕事ができる状態ではなくなりました。
- 自分の場合、入院・外科手術についてはメジャーな治療なので周りの理解はすぐ得られたが、放射線治療で毎日通院については一瞬ではあるが怪訝な雰囲気を感じた。毎日通院は1時間休憩時間を利用したが、いつもギリギリで焦り感があった。
- 本人の意思で働ける人も多いので周囲の理解が必要！「がん」という病名の重さからか、周囲から気にされすぎたり逆に無神経に深く入り込まれたり精神的に辛い経験が多数ありました。「がん」＝「死」と思わず、病があっても本人は本人とすることをわかってもらいたいです。
- 現在、抗がん剤治療のため休職中で、その後復帰ができるのか不安であることや、他の仲間迷惑をかけるなど病気の他に考えることが多い。医療費が高いため、やめたくてもやめられない。
- 抗がん剤の治療以外のホルモン治療など、あまり周りに理解してもらえない。副作用が長く続く治療への理解があまりないことが不安。病院も抗がん剤や手術が終わるとあまり相談する場面がなく、10年続く更年期障害が不安。
- 私は6年前に声帯を取り、声を失いました。現在は一人暮らしで障害年金で生活していますが、現状はきびしいです。外での仕事は不可能です。PCなどは使えませんが在宅で出来る仕事があれば体の調子を見ながら仕事はしたいと思います。
- 看護師ですが手足のしびれがあり、看護助手業務への転換を上司と相談して決めました。入院案内、コール取り、配下膳、検体提出、薬液を取りに行くなどの業務で、現在職員として働かせていただいています。

- 再就職だけでも大変なののがん患者として就職するのはとても大変。
- 私は診断時に（がんが進行していたので）自ら退職の道を選んでしまいました。今現在治療中ですが、また働けるのであれば働きたいけど迷惑をかけてしまいそうでなかなか前に進めません。
- 大きな会社なら少しは考慮していただけるのですが、小さい会社はそうはいかないです。
- がん患者＝当てにならないという考えはやめるべきだ。自分がその身になったときのことを良く考えてみるべきだと思う。病院代もものすごくかかるので、仕事をして収入を得なければ安心して治療ができない。
- 公務員はどこに相談すればいいのでしょうか。
- 中小企業などでは、長期に休んだり通院が頻回となった場合、社員からパート又は退社へと誘導されることが多いのでは？
- 就職先もあまりない小さな町では休職するのも難しいかと思います。
- 会社の理解ももちろんですが、回りのスタッフの理解が大変のように感じます。長い治療だと迷惑になってきますので、体調不良を我慢しないと働けない。
- がん患者に対する理解がなされていないと感じることが多々あります。遠回しに退職をせまる等。
- 給与の補償というのも、同じ仕事をしている仲間からすると負担は増えるし、産休代替のような職員を雇うことも難しいか。
- がんや他の疾病で重いものが持てず、右腕が不自由です。仕事もできず困っているが、生活保護は受けたくないと考えており、今どうしたら良いかわからなくなっている。
- 治療を続けながらの就労継続はできない場合が多いと思います。職場の協力が必要だと思います。まず必要なことは相談できる窓口だと思います。自分に合った生き方を見つけるために、話を聞いてもらえる所に相談して決めていきたいと思います。
- 人手不足のおかげで（？）退職せずに継続できている気がしないでもないのが実感。それでも仕事があることは恵まれており、ありがたく思います。

問6 「緩和ケア」の認識

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 知っている	58	75.3%	114	83.8%	2	50.0%	174	80.2%
2 内容知らない	15	19.5%	19	14.0%	1	25.0%	35	16.1%
3 知らない	3	3.9%	2	1.5%	1	25.0%	6	2.8%
4 回答無効	1	1.3%	1	0.7%		0.0%	2	0.9%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

問6-2 緩和ケアを知ったきっかけ(問6 1の回答者)

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 以前から	27	46.6%	55	48.2%		0.0%	82	47.1%
2 医師	8	13.8%	15	13.2%		0.0%	23	13.2%
3 医師以外	8	13.8%	15	13.2%		0.0%	23	13.2%
4 相談部門	10	17.2%	11	9.6%		0.0%	21	12.1%
5 その他	3	5.2%	16	14.0%	1	50.0%	20	11.5%
6 回答無効	2	3.4%	2	1.8%	1	50.0%	5	2.9%
総計	58	100.0%	114	100.0%	2	100.0%	174	100.0%

問6-2 その他(記述)

- 自身が受けた又は家族が受けていて知った(6)
- がんサロンや講演会等で知った(4)
- 雑誌やネット等でみた、調べた(5)
- テレビ番組(3)
- 病院の掲示物等の媒体(2)

問7 緩和ケアのイメージ(複数回答)

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 身体的苦痛の緩和	52	67.5%	100	73.5%	3	75.0%	155	71.4%
2 精神的苦痛の緩和	55	71.4%	99	72.8%	3	75.0%	157	72.4%
3 薬物療法等と一緒にを行う	17	22.1%	44	32.4%	0	0.0%	61	28.1%
4 終末期ケア	39	50.6%	76	55.9%	2	50.0%	117	53.9%
5 入院患者	2	2.6%	4	2.9%	0	0.0%	6	2.8%
6 よくわからない	3	3.9%	2	1.5%	1	25.0%	6	2.8%

問8 緩和ケアに関する十分な説明

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 あった	25	32.5%	29	21.3%		0.0%	54	24.9%
2 なかった	12	15.6%	39	28.7%	1	25.0%	52	24.0%
3 求めている	26	33.8%	45	33.1%	1	25.0%	72	33.2%
4 覚えていない	4	5.2%	12	8.8%	2	50.0%	18	8.3%
5 回答無効	10	13.0%	11	8.1%		0.0%	21	9.7%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

問9 緩和ケアを受けたことの有無

	男性		女性		性別不明		総計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 受けている	21	27.3%	43	31.6%		0.0%	64	29.5%
2 過去に受けた	5	6.5%	9	6.6%		0.0%	14	6.5%
3 受けたことない	42	54.5%	76	55.9%	4	100.0%	122	56.2%
4 回答無効	9	11.7%	8	5.9%		0.0%	17	7.8%
総計	77	100.0%	136	100.0%	4	100.0%	217	100.0%

問9-2 希望が取り入れられるような配慮(問9 1~2の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 あった	17	65.4%	34	65.4%	51	65.4%
2 なかった		0.0%	2	3.8%	2	2.6%
3 希望の申出なし	8	30.8%	15	28.8%	23	29.5%
4 回答無効	1	3.8%	1	1.9%	2	2.6%
総計	26	100.0%	52	100.0%	78	100.0%

問9-3 スタッフの相談等の対応(問9 1~2の回答者)

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 応じてくれている	25	96.2%	48	92.3%	73	93.6%
2 応じてくれない時あり		0.0%	3	5.8%	3	3.8%
3 応じてくれない		0.0%		0.0%	0	0.0%
4 回答無効	1	3.8%	1	1.9%	2	2.6%
総計	26	100.0%	52	100.0%	78	100.0%

問9-4 身体的苦痛の和らぎ具合

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 和らいでいる	6	23.1%	25	48.1%	31	39.7%
2 大体和らいでいる	13	50.0%	18	34.6%	31	39.7%
3 和らいていない		0.0%	2	3.8%	2	2.6%
4 わからない	5	19.2%	5	9.6%	10	12.8%
5 回答無効	2	7.7%	2	3.8%	4	5.1%
総計	26	100.0%	52	100.0%	78	100.0%

問9-5 精神的苦痛の和らぎ具合

	男性		女性		総計	
	人	%	人	%	人	%
1 和らいでいる	7	26.9%	26	50.0%	33	42.3%
2 大体和らいでいる	13	50.0%	19	36.5%	32	41.0%
3 和らいでいない		0.0%	1	1.9%	1	1.3%
4 わからない	5	19.2%	5	9.6%	10	12.8%
5 回答無効	1	3.8%	1	1.9%	2	2.6%
総計	26	100.0%	52	100.0%	78	100.0%

問10 緩和ケアに関する意見など(自由記述)

<男性>

■緩和ケアを受けての所感に関するもの

- 緩和ケアに関しては患者側にその制度と業務等の内容の理解が必要で、病院側としては当該業務と重要性を周知させる必要があると考えます。看護師等が勝手に担当する患者に対して痛みの程度を聞き取るだけだと思っている人が多いようですが、病院により麻酔科と連携していたり、場合により処方薬を協議したりすることがあるので、内容を理解する必要があると思います。
- 色々相談できるのがありがたい。
- がん患者にとって緩和ケアは非常に大切だと思います。がん患者は孤独です。話相手が必要です。話すことで精神的肉体的に楽になるものです。
- 多くの人に緩和ケアのシステムを知ってもらいたいと思う。とても心強いです。精神的にとっても救われています。
- 身体的苦痛は比較的早めに対応してくれるが、精神面のことなど、こちらから伝えにくい感じがある。察して聞いて欲しい。
- 病状等について快く相談に応じてくれ説明してくれるので勇気づけられる。

■緩和ケアの認識・考えに関するもの

- 現在の病院の担当の先生もさることながら相談支援センターのスタッフからも懇切丁寧な説明を受けて、現在の病状を理解できて前向きな姿勢で受け入れるようになった。ただ、治療中と同じ病院で緩和ケアを受けたいと思う。
- 緩和ケアが宣伝される割に実体制についての情報がなさすぎると感じている。緩和ケアについて本人ばかりか周囲(家族、知人、職場)の人々に知識や理解がないのではないか。
- 必要と考えています。
- 具体的に何が緩和ケアに該当するのかわからない状態であり、関係者から説明を求める等自己研鑽が必要と感じています。
- 緩和ケアの病院が少ないのでこれからは絶対必要になると思います。

■緩和ケアの課題・要望に関するもの

- 緩和病棟やがんサロンのほかに、医療的ケアやリハビリ・談話室などを受け入れる施設を増設整備してほしい。(例：ふれあいセンター、公民館などに)
- 家族より本人の気質等により、緩和ケアを受け入れられなかった場合は？納得してケアを受けられるのか？精神安定に対応してほしい。
- 地元で受け入れ病院等(保険適用)がない。個室部屋代がかかったり、短期間しかない。
- 終末期ではなく初診時からの説明がほしい。医師、看護師、患者が一つになって緩和ケアに取り組んでほしい。
- 催事を増やしてほしい。今後積極的に参加してみたい。
- がんになった以上は完全に治すのは無理と担当の医師から言われているが、抗がん剤などの薬と仲良くつきあっていくしかないでしょうか。
- 在宅緩和ケアにも取り組んで欲しい。
- 入院病棟の確保が急務ではないか。

<女性>

■緩和ケアを受けての所感に関するもの

- 身内が先日緩和ケア病棟で人生を終えました。本人も家族も緩和ケアを受けた選択は間違っていなかった。一般の方にも緩和ケアを広く知ってほしいと思います。
- 抗がん剤治療の副作用が辛い時、緩和ケアを主治医が進めてくださり、思いを話せ心が穏やかになると辛い治療とも向き合う事ができました。
- 精神・身体的・終末期のケアというよりも、今自分が治療していく中で今後、どのような日常（仕事・生活）を送っていくのかの力にはなってくれています。他の方は終末期のイメージが強いと思いますが、私はそうは思いません。もっと緩和ケアの力は必要になってくると思います。
- ほっとする空間です。
- 抗がん剤治療の時、病院に入っている薬局の方が一人一人にその後の様子や困っていることがないか、吐き気はどうか「声かけ」をしてくださいます。それがどれだけ私たちの心の支えになっているか、がんばる力になっているか、お伝えしたいと思います。
- 身体の痛み、職をなくす、精神的な苦痛が一番の苦しみでした。薬が合わない、立ってられないなど、今まで経験の無いことばかりでした。でも、今は平穏でいられることが幸せです。
- 終末期医療だと認識していましたが相談員の親切丁寧な説明により抗がん剤療法の初期から、緩和ケアを受診できており精神的に助けられています。
- 病院のがんサロンに毎回ではないが調子の良いときに参加している。スタッフがとても明るくやさしくて楽しい時間が持てる。
- 看護師達や緩和ケアのスタッフの方々にはいつも話を聞いてもらい、折れていた心も楽になり、助けてもらった事に感謝して居ります。
- 緩和ケアという言葉は以前から知っていましたが、実際に自分ががんになって治療する際に特に精神的に助かりました。現在通院中ですが専門スタッフには非常に助かっています。
- 緩和ケアのおかげで在宅の時は比較的日常生活が楽に過ごせている。※訪問看護や訪問家事、ケアマネ等いろいろな人達の手を借りて。
- 今は治療を受けながら緩和ケアを受けています。精神的な不安や体の痛みなどよく話を聞いてくれてそれに応じて薬を処方してもらっています。これからもし治療が出来なくなっても最後まで緩和ケアは受けていきたいです。
- ケアを受けて本当に良かったと思っています。いろいろと相談にのってくれてとても感謝です。もっとたくさんの人たちに知ってもらって受けて欲しいです。
- 緩和ケアを受けすぎ心強い。
- 月に一度ケアを受けているが、医師や看護師が話を聞いてくれて、精神面が少し緩和されています。
- 嫌な気分です。帰ってきたことが何度もある。
- 医療スタッフ側の認知がまだ低く、終末期ケアと思っている人が多すぎる。医療スタッフの意識向上が必要。
- 緩和ケアを受けていなかったら今の私は存在していません。これからもお世話になりたいと強く思います。
- 終末期ケア＝緩和ケアのイメージが一般的かと思うが、がん患者への助言、治療も緩和ケアと新聞に載っていた記憶があります。主治医の励ましの一言がどれだけチカラになったかと思えばうなずけます。

■緩和ケアの認識・考えに関するもの

- むずかしいですね。精神面のケアは必要だと思います。従事のスタッフの方達、大変だと思いますが、よりそってあげてください。
- 緩和ケア＝最期（終末）のイメージが強く、できればお世話になりたくない。
- 具体的な内容を知らないのと特にありませんが、本人及びその家族を対象とするものであると認識しています。
- 終末期の人、命が危ない様な余命宣告された人が行く様な所なのかと思いました。

- 今の段階では漠然としかわかりません。もし、自分に話がきても自宅にいたいです。
 - 緩和ケアの話を通院中、自覚していないときに医師から言われると不安になる（あまり早い段階で）
 - 一般病院では治療もせずに入院させておくことはできないとのことで、がん難民状態の患者の行くところ、受けるものと感じている。ホスピスと同じ意味にとっています。
- 緩和ケアの課題・要望に関するもの
- 終末期医療となる前にどのような治療が受けられるのか、受入可能病院があるのかなどの情報はあっても良いと思います。なかなか入れないと聞いているので、情報を聞いておくとう安心感が生まれると思います。
 - スタッフ達が自分の意見を良く聞いてくれて痛みがなく短くても楽しく穏やかな最後を迎えたい。
 - 緩和ケアの病院棟を増やしてほしい。（一般病棟とは別に）
 - 医師は本人に病状の現在と過去を知らせることが重要。それにより本人も選択できる。希望を持たせながら苦痛を緩和し、共に命ある限り最大のケアをすることが大事と思う。
 - 今の病院には緩和ケア病棟がないので、どの病院にもあったらいいと思う。
 - 「早期からの緩和ケア」と謳われていても、病院スタッフの認識がなければ、早期発見早期治療を受けた患者への緩和ケアの具体策は提示できない。ステージ0の患者にも精神的苦痛は存在する。緩和ケアを「末期がん」と決めつけているのは医療者側だと感じている。
 - 一律的なサポートではなく、当事者や家族の希望に添ったケアが必要だと思う。がん治療に対する不安は痛い・苦しい・お金がかかるといったものと、精神的な不安がある。自分で理解していてもどうすることもできない気持ちなど受け止めてくれる人が必要だと思う。
 - がん相談員の方がとにかく忙しそうで…。ゆっくりお茶を飲んだりできたらなあと思うのですが、なかなか難しいです。精神的にしんどかったので医療従事者からの専門的なアドバイスがほしいです。
 - 緩和だけに限らず、スタッフの「寄り添う」という事への意識をもっとしっかり持ってほしい。
 - 痛みや精神的苦痛を少しでも和らぐよう努力していただき、少しでも穏やかに時間を過ごせるよう希望する。
 - 緩和ケア科にお世話になる場合は、自宅近くにあると助かります。個人病院でも緩和ケアの標榜をしているところは少なく、もっと増えてくれることを望みます。
 - 身体的に苦痛があると精神的にも大きな苦痛になると思います。気軽に相談できる体制となるといいと思います。
 - 機会があれば緩和ケア病棟を見学、体験をしてみたいと思っています。
 - （緩和ケアに関わる）専門の医療スタッフだけでなく、他のスタッフも緩和ケアの考え、視点で関わってほしい。
 - 緩和ケアを患者だけではなく家族にも知ってもらえるよう情報を得る手段があればいいかも知れない。一般の人たちにも興味がある方がいると思います。
 - 疼痛などを伴う場合は積極的に介入してもらいたいと思います。精神的な面においても必要だと思います。
 - 終末期にするものというイメージが医師の間でもまだある。がんとわかった初期から右往左往しながら患者は苦しんでいるため、精神的なケアをしてくれる医師がいてくれたら助かる。
 - 緩和ケアのイメージは終末期と思っている人が多いと思うが、苦痛を和らげるケアであることを多くの人に理解される必要があると考える。
 - もっと説明される場があったら相談する人も増えると思う。
 - いざとなったら緩和ケアと思っていましたが、何をするにもお金。もう少し入院しやすい金額の制度ができることを願います。